

平成29年度 平城宮跡資料館新春ミニ展示

平城京の戌いぬ



二〇一八年ノ干支ハ、イヌ。



2018年の年始にあたって

あけましておめでとうございます。

今年の干支は「戌(つちのえ)戌(いぬ)」。今回のミニ展示は戌年にちなんで、平城京から出土した犬の墨画土器と、犬に関わる木簡を展示いたします。

犬は私たちにとって大変身近な動物ですが、人と犬の関係はとても古く、縄文時代から犬は人びとと一緒に暮らしていました。

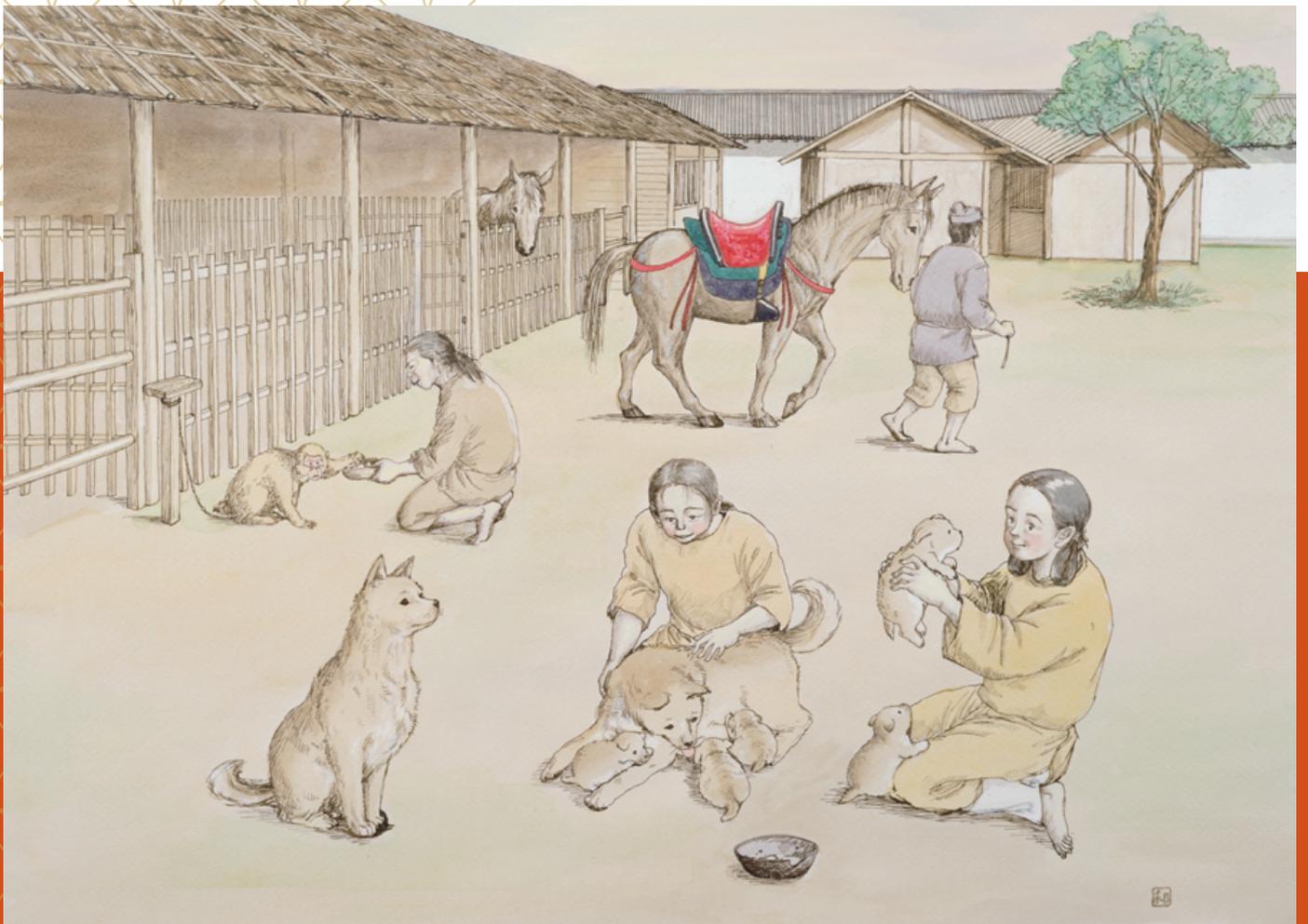
奈良時代には長屋王の邸宅で、犬が大切に飼育されていたことが木簡からわかりました。きっと平城京の中でも多くの犬が飼われ、人びとのパートナーとして大切に可愛がられていたことでしょう。犬は忠実で親しみやすい性格から、「勤勉で努力家」にたとえられるそうです。本年は学び、蓄えるのに最適な年といえそうです。

2018年が皆さまにとって「ワン」ダフルな一年となりますように。

2018年 戌戌

独立行政法人 国立文化財機構

奈良文化財研究所 所長 松村恵司



犬にまつわる木簡

・子生犬一米一升受長麻呂
・十月十六日山麻呂
○ ○



平城京左京三条二坊（長屋王邸）出土
奈良文化財研究所蔵
長さ192mm 幅34mm 厚さ4mm

・犬司少子二口飯四升 受益人
・十月十三日 大□
○ ○



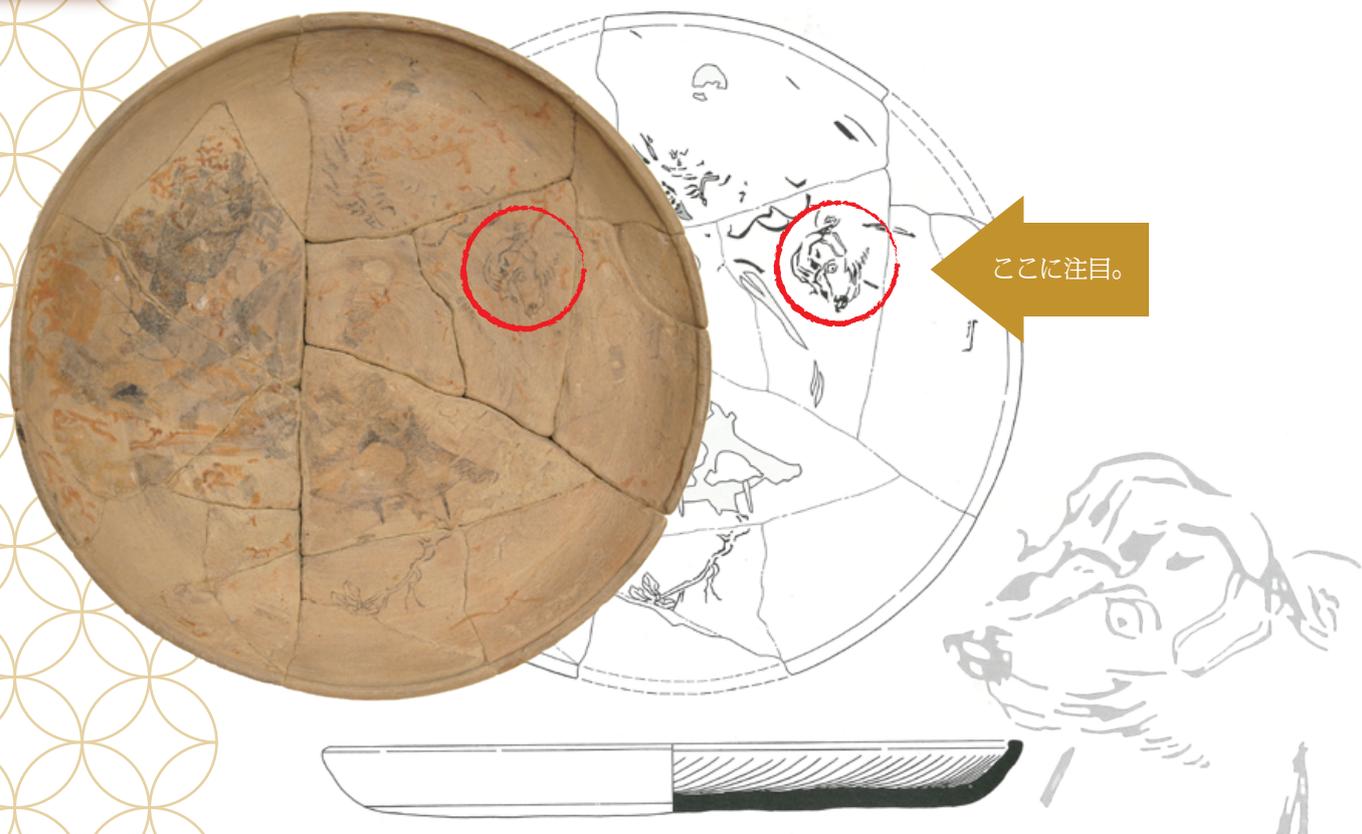
平城京左京三条二坊（長屋王邸）出土
奈良文化財研究所蔵
長さ206mm 幅18mm 厚さ4mm

奈良時代の貴族、長屋王の邸宅跡からは、犬に関する木簡が多数出土しています。1は、子犬を産んだ母犬のエサを支給する伝票木簡です。エサとして米が与えられたようで、この時支給された米は一升。現代の約四・五合（0.ハーリットル）に相当します。

また、長屋王邸では「犬司」という犬の世話係も設けられていました。二人の少子（こども）が犬の世話を担当していました。2は、そんな彼らへの米の支給伝票木簡です。

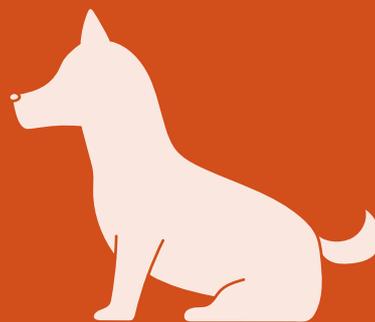
長屋王邸に暮らすこれらの犬たちは、食用犬や狩猟犬であったとする説もありますが、「若翁犬（若翁＝王族の年少の子女）」と書く木簡などから、ペットとして飼われていたと考えられています。中には「御馬屋犬」のように、番犬として活躍したと思われる例もみえます。

犬の顔?! が描かれた土器



平城京左京三条二坊（長屋王邸）出土
奈良文化財研究所所蔵
口径21.2cm 高さ2.1cm

犬の絵が描かれた墨画土器。木簡と同じく長屋王邸から出土しました。外面には五匹の猿の絵なども描かれており、その正確な筆使い・描写から、専門の絵師が下描きとして描いたものだろうと考えられています。



開催期間 2018年1月4日（木）～1月28日（日）

発行 独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所
〒630-8577 奈良市佐紀町 247-1

<https://www.nabunken.go.jp/>

編集 独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所
企画調整部 展示企画室